

# 市民活動エンパワメント連絡会 学習会のご案内

長引くコロナ禍は「女性不況」と呼ばれるほど女性に深刻な影響を与えました。非正規で働いていて失職したのは女性が多く、路上に出たり炊き出しの列に並んだりする女性も目立つといえます。国の成長戦略で「女性が輝く」ことがうたわれる中、深刻化していく若い女性の貧困。

なぜ、女性の貧困が問題になるのか？日本のこれまでの住宅政策から女性や若者がいかに排除されてきたのか？

講師の伊藤保子さんは、若年女性の居住喪失を切り口として、再スタートまでの経路を追うことで、若年女性支援における居住の重要性を確認し、再び居住を取り戻すために必要な「社会資源」を明らかにすることを目的として修士論文を執筆しました。女性や若者が日本のこれまでの住宅政策からいかに排除されてきたか、「居住は人権である」という視点のもとに中間的居住支援施設のインタビュー調査を行っています。

この学習会を通してあらためて若者・女性の貧困を、居住の問題に注目して考えます。

## 若者・女性の貧困～居住に注目して～

講師：伊藤保子さん

エンパワメント  
連絡会メン  
バーの方は申  
込不要です。

### 伊藤保子さんプロフィール

- 1953年生まれ、1976年明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
  - 知的障害児育成施設に入職、結婚退職、第1子の誕生後生活クラブ生協に加入
  - 夫の海外転勤から戻って、ワーカーズ運動を知り、ワーカーズコレクティブ運動に参加、ワーカーズコレクティブももの木加入
  - 子育ての社会化を目指して、1997年ワーカーズコレクティブさくらんぼを設立し、保育事業、子育て支援事業を展開、2002年NPO法人格を取得。
  - 2018年理事長を退任し、立命館大学院産業社会学部応用社会学科に入学
  - 2023年NPO法人を退職し現在にいたる。
- 何故こんなに子育てが大変なんだろうという自分たちの思いを事業を通じて解決を図るために事業展開してきたが、近年ようやく制度が追いつき当初の目的であった子育ての社会化が政治の課題となってきた。
- NPO法人さくらんぼが提供する居住支援施設「JIKKA」の運営の中で若年女性の居住喪失がごく身近にあることに衝撃を受け、大学院の学びの中で、これまで社会制度の対象とならなかった、若者や女性がなぜこんなに苦勞するのか、子育て、介護という家族の中で女性が担ってきたケアの問題に視点が移った。
- 現在は居住の保障が生活の基盤であり、それは人権であるべきだという思考の中でそこから一番排除されている女性や若者の居住支援の拡張の一助を果たしたいと活動している。

- 学習会はオープン参加ですので、どなたでもご参加ください。ZOOM参加もできます。

日時

2023年7月11日(火)15:00～17:00

会場

オルタナティブ生活館5Fまなびや (ZOOM併用)

参加申込

NPO法人全員参加による地域未来創造機構 菅原  
横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F  
Tel:045-534-7131 Fax:045-534-7151  
e-mail:junko.sugahara@miraikikou.org